

## 平成30年 市職員への年頭訓示

みなさん、新年明けましておめでとうございます。

新しい年を、皆さんも清々しい気持ちで、迎えられたことと思います。

さて、今年は、木津川市発足時の課題でありました大型事業が多くの皆様のご支援ご協力のお陰をもちまして完成の日を迎える予定です。

3月には、「木津川架橋」が完成し「赤田川水門」が供用を開始いたします。環境の森センター・きづがわ」につきましても、4月に火入れ式を行い、9月から供用を開始する予定となっています。

そして昨年末に起工式を行いました「木津東バイパス」も今後、近畿地方整備局京都国道事務所によりまして工事を進めていただきます。

今後、木津川市の景色が平成30年をスタートに、さらに大きく変わっていくものと考えています。

このように、着実に市政を進めてこられましたのも、職員の皆さんが、それぞれの持ち場で力を合わせて職務に取り組んでいただいたお陰と、大変感謝をいたしております。

一方で、市の財政は平成28年度決算におきまして、基金残高が大幅に減少しました。さらには経常収支比率が97.8%と、大きく悪化するなど、厳しい財政状況に直面しています。

このため昨年9月にそれぞれの事業に精通している皆さんに行財政改革のアイデアを提案いただいたところです。

今後は、当初予算を編成する過程において、十分な検討を行っていきたいと考えています。

また、来年度末までに第2次木津川市総合計画を策定いたします。

現在、職員の皆さんにまちの将来像を考えていただいておりますが、次の10

年に向けて、職員、全員が力を結集し、知恵を出し合うことが、必要不可欠です。

皆さんも、自らを研鑽いただき、市職員として所属を超えて市の課題について真剣に考え提案いただくことが、更なるまちの飛躍に繋がるものと考えています。

私自身、残すところ1年3カ月余りの任期となりますが、全力で職務に邁進してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

今年の干支は、戊戌です。

一説によりますと、こだわってきたものを切り捨てることで新たなチャンスが生まれてくるという意味も込められていると伺いました。

まさに行財政改革を行うにふさわしい年であります。

10年後も子や孫の世代が生き生きと暮らせるまちとなりますよう、職員一丸となり取り組んでいきましょう。

結びに、今年が皆さんにとりまして、笑顔あふれる幸多い年でありますようにそして木津川市の更なる飛躍を祈念いたしまして、年頭の訓示といたします。

平成30年1月4日

木津川市長 河井 規子